

科目名	死生学
担当教員	片桐 史恵、高木 総平、古川 秀昭、吉川 杉生
学年	1 年
開講期	後期
単位数	2
授業形態	講義

到達目標	到達目標は必ず入力してください。 1、人間を取り巻く生と死の諸問題について学ぶ事の意義とその必要性を理解する。【1と2に対応】2、日本の「死生学」の発展過程について理解する。【2に対応】3、人間の生と死の深い知識を習得し、生と死の諸問題に関し多角的に討論できる。【3と5に対応】4、全ての人間に関わる生と死の問題を見つめることを通じ、感性を磨き、答えのない課題に向き合う力を育むことができる。【4に対応】＊【】は、学位授与方針との関係性を示す。（学位授与方法は履修要項を参照） 到達目標は必ず入力してください。																																																			
授業概要	講義概要は必ず入力してください。 現代社会において各々の領域においてケアを受ける人々の「ＱＯＬ」を如何に保持し、また高められるかが切実な課題となっている。そのために、すべての人間にとって必然的な帰結である死を前にしての「ＱＯＬ」もまた考えねばならない。答えのない課題に向き合う力をつけることに主眼を置き、様々な素材を提示し考える授業を展開する。本科目では、学んだことを活かす力を養うため、グループワークやプレゼンテーションを行う。学びの深まりとアクティブラーニングの視点を重要視している。 講義概要は必ず入力してください。																																																			
授業回数について	この授業は16回です。第16回まで入力してください。																																																			
授業計画	授業計画は必ず入力してください。 <table><tr><td>No</td><td>授業</td><td>予習・復習</td></tr><tr><td>第1回</td><td>死生学とは何か</td><td>生と死を学ぶ事にどのような意義があるのか自分なりに考えてくること（90分）</td></tr><tr><td>第2回</td><td>生と死をめぐる諸問題 ―インフォームドコンセント―</td><td>予習：インフォームドコンセント、告知の単語の意味を調べよ（90分） 復習：家族と告知について会話をする（120分）</td></tr><tr><td>第3回</td><td>生と死をめぐる諸問題 ―グリーフ（悲嘆）ケア―</td><td>予習：喪失体験とは何か考えてくる（90分） 復習：グリーフケアにおけるケア従事者の役割についてまとめる（120分）</td></tr><tr><td>第4回</td><td>生と死をめぐる諸問題 ―国内外における安楽死の動向―</td><td>予習：安楽死という言葉調べてくる。（90分） 復習：安楽死の国内外の動向について自分の見解をまとめよ。（120分）</td></tr><tr><td>第5回</td><td>生と死をめぐる諸問題 ―自死への理解と対応―</td><td>予習：近年の自殺率を調べる（90分） 復習：自殺予防のために何が出来るか考える（120分）</td></tr><tr><td>第6回</td><td>宗教による生と死の理解 ―宗教と死―</td><td>予習：人間と宗教について考えてくる事（90分） 復習：講義内容をノートにまとめること（120分）</td></tr><tr><td>第7回</td><td>芸術による生と死の理解</td><td>講義終了後は、講義内容を自分なりにノートにまとめておく。（180分）</td></tr><tr><td>第8回</td><td>芸術による生と死の理解</td><td>講義終了後は、講義内容を自分なりにノートにまとめておく。（180分）</td></tr><tr><td>第9回</td><td>芸術による生と死の理解</td><td>講義終了後は、講義内容を自分なりにノートにまとめておく。（180分）</td></tr><tr><td>第10回</td><td>芸術による生と死の理解 ―文学 絵本―</td><td>予習：自らが今まで出会った絵本で、生と死を考えさせられた本はどんな本か思い出す（90分） 復習：講義内で紹介した本について論述する</td></tr><tr><td>第11回</td><td>生と死を見つめる ―震災 おもかげ復元師から学ぶ―</td><td>予習：震災について考えてくること（90分） 復習：ビデオから学び感じたことをまとめる（120分）</td></tr><tr><td>第12回</td><td>生と死を見つめる ―絵本作り―</td><td>予習：自らが後世に残したいメッセージを明確にし、ストーリーを考える。（90分） 復習：絵本を作るにあたって、工夫したこと苦労したことを言語化する（120分）</td></tr><tr><td>第13回</td><td>生と死を見つめる ―作成絵本発表会―</td><td>学んできたことを生かし自ら伝え発信する側になる。グループでディスカッションしながら、絵本作りを進めること（180分）</td></tr><tr><td>第14回</td><td>生と死の実践 ―最期の時を迎える―</td><td>予習：自らが最期の時を迎える事、患者や利用者が迎える最期の時に寄り添う事の両方の視点で考える事の準備（90分）</td></tr><tr><td>第15回</td><td>生と死の実践 ―デス エデュケーションの取り組み―</td><td>予習：生と死の教育はどうあるべきか考える（90分） 復習：自分ならどんな生と死の教育をするか、具</td></tr><tr><td>第16回</td><td>定期試験</td><td>講義内容の振りかえりを行い、理解したことを明らかにした上で、自らの見解を論じることが出来る様、自分なりにノート等にまとめておくこと（180分）</td></tr></table>	No	授業	予習・復習	第1回	死生学とは何か	生と死を学ぶ事にどのような意義があるのか自分なりに考えてくること（90分）	第2回	生と死をめぐる諸問題 ―インフォームドコンセント―	予習：インフォームドコンセント、告知の単語の意味を調べよ（90分） 復習：家族と告知について会話をする（120分）	第3回	生と死をめぐる諸問題 ―グリーフ（悲嘆）ケア―	予習：喪失体験とは何か考えてくる（90分） 復習：グリーフケアにおけるケア従事者の役割についてまとめる（120分）	第4回	生と死をめぐる諸問題 ―国内外における安楽死の動向―	予習：安楽死という言葉調べてくる。（90分） 復習：安楽死の国内外の動向について自分の見解をまとめよ。（120分）	第5回	生と死をめぐる諸問題 ―自死への理解と対応―	予習：近年の自殺率を調べる（90分） 復習：自殺予防のために何が出来るか考える（120分）	第6回	宗教による生と死の理解 ―宗教と死―	予習：人間と宗教について考えてくる事（90分） 復習：講義内容をノートにまとめること（120分）	第7回	芸術による生と死の理解	講義終了後は、講義内容を自分なりにノートにまとめておく。（180分）	第8回	芸術による生と死の理解	講義終了後は、講義内容を自分なりにノートにまとめておく。（180分）	第9回	芸術による生と死の理解	講義終了後は、講義内容を自分なりにノートにまとめておく。（180分）	第10回	芸術による生と死の理解 ―文学 絵本―	予習：自らが今まで出会った絵本で、生と死を考えさせられた本はどんな本か思い出す（90分） 復習：講義内で紹介した本について論述する	第11回	生と死を見つめる ―震災 おもかげ復元師から学ぶ―	予習：震災について考えてくること（90分） 復習：ビデオから学び感じたことをまとめる（120分）	第12回	生と死を見つめる ―絵本作り―	予習：自らが後世に残したいメッセージを明確にし、ストーリーを考える。（90分） 復習：絵本を作るにあたって、工夫したこと苦労したことを言語化する（120分）	第13回	生と死を見つめる ―作成絵本発表会―	学んできたことを生かし自ら伝え発信する側になる。グループでディスカッションしながら、絵本作りを進めること（180分）	第14回	生と死の実践 ―最期の時を迎える―	予習：自らが最期の時を迎える事、患者や利用者が迎える最期の時に寄り添う事の両方の視点で考える事の準備（90分）	第15回	生と死の実践 ―デス エデュケーションの取り組み―	予習：生と死の教育はどうあるべきか考える（90分） 復習：自分ならどんな生と死の教育をするか、具	第16回	定期試験	講義内容の振りかえりを行い、理解したことを明らかにした上で、自らの見解を論じることが出来る様、自分なりにノート等にまとめておくこと（180分）
No	授業	予習・復習																																																		
第1回	死生学とは何か	生と死を学ぶ事にどのような意義があるのか自分なりに考えてくること（90分）																																																		
第2回	生と死をめぐる諸問題 ―インフォームドコンセント―	予習：インフォームドコンセント、告知の単語の意味を調べよ（90分） 復習：家族と告知について会話をする（120分）																																																		
第3回	生と死をめぐる諸問題 ―グリーフ（悲嘆）ケア―	予習：喪失体験とは何か考えてくる（90分） 復習：グリーフケアにおけるケア従事者の役割についてまとめる（120分）																																																		
第4回	生と死をめぐる諸問題 ―国内外における安楽死の動向―	予習：安楽死という言葉調べてくる。（90分） 復習：安楽死の国内外の動向について自分の見解をまとめよ。（120分）																																																		
第5回	生と死をめぐる諸問題 ―自死への理解と対応―	予習：近年の自殺率を調べる（90分） 復習：自殺予防のために何が出来るか考える（120分）																																																		
第6回	宗教による生と死の理解 ―宗教と死―	予習：人間と宗教について考えてくる事（90分） 復習：講義内容をノートにまとめること（120分）																																																		
第7回	芸術による生と死の理解	講義終了後は、講義内容を自分なりにノートにまとめておく。（180分）																																																		
第8回	芸術による生と死の理解	講義終了後は、講義内容を自分なりにノートにまとめておく。（180分）																																																		
第9回	芸術による生と死の理解	講義終了後は、講義内容を自分なりにノートにまとめておく。（180分）																																																		
第10回	芸術による生と死の理解 ―文学 絵本―	予習：自らが今まで出会った絵本で、生と死を考えさせられた本はどんな本か思い出す（90分） 復習：講義内で紹介した本について論述する																																																		
第11回	生と死を見つめる ―震災 おもかげ復元師から学ぶ―	予習：震災について考えてくること（90分） 復習：ビデオから学び感じたことをまとめる（120分）																																																		
第12回	生と死を見つめる ―絵本作り―	予習：自らが後世に残したいメッセージを明確にし、ストーリーを考える。（90分） 復習：絵本を作るにあたって、工夫したこと苦労したことを言語化する（120分）																																																		
第13回	生と死を見つめる ―作成絵本発表会―	学んできたことを生かし自ら伝え発信する側になる。グループでディスカッションしながら、絵本作りを進めること（180分）																																																		
第14回	生と死の実践 ―最期の時を迎える―	予習：自らが最期の時を迎える事、患者や利用者が迎える最期の時に寄り添う事の両方の視点で考える事の準備（90分）																																																		
第15回	生と死の実践 ―デス エデュケーションの取り組み―	予習：生と死の教育はどうあるべきか考える（90分） 復習：自分ならどんな生と死の教育をするか、具																																																		
第16回	定期試験	講義内容の振りかえりを行い、理解したことを明らかにした上で、自らの見解を論じることが出来る様、自分なりにノート等にまとめておくこと（180分）																																																		

評価方法	1. 定期試験（50%） 2. プレゼンテーション・提出物（30%） 3. 授業への参加度（20%）																																									
受講上の注意	1. 予習復習自発的に行ったうえで、講義を受ける事。 2. 授業への積極的な参加と主体的な学び、真面目な授業態度が求められる。 3. 講義内容の振りかえりを行い、理解したことを明らかにした上で、自らの見解を論じることが出来る様、自分なりにノート等にまとめておく事。 4. オムニバスの授業のため授業内容及び順番が変更することもある。 5. 講義中の携帯電話の使用、私語は厳禁。																																									
テキスト （履修者 全員が 購入する もの）	<table><tr><th>No</th><th>文献名</th><th>著者</th><th>出版社</th><th>出版年</th><th>ISBN</th></tr><tr><td>1.</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2.</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3.</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>4.</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>5.</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>						No	文献名	著者	出版社	出版年	ISBN	1.						2.						3.						4.						5.					
No	文献名	著者	出版社	出版年	ISBN																																					
1.																																										
2.																																										
3.																																										
4.																																										
5.																																										